

心を見つめる教育週間 はじまる

昨日14日から、「喜々津っ子の心を見つめる」教育週間が始まりました。この1週間は、保護者の方だけでなく、ゲストティーチャーとして、複数の団体の方がいらっしゃいます。

初日の校長講話では、まず、あいさつ運動について話をしました。朝の「おはようございます」という言葉には、一日の意気込みや相手を励ます気持ちが込められています。笑顔であいさつをされると、なんだかうれしくなり、後出しのあいさつよりも、先出しのあいさつのほうが、もっとうれしくなります。これから、梅雨のじめじめを吹き飛ばすような「さわやかなあいさつ」を心がけるよう、呼びかけました。

次に、県内で心を見つめる教育週間が始まったきっかけでもある、「命の大切さ」について、次のように話をしました。(抜粋)

命はかけがえのないものです。「かけがえのない」というのは、代わりがないということです。死んでしまえばそこで終わりです。ゲームのように、死んだらリセットしてもう一度やり直すということはできません。ですから、一度限りの命を大切にしなければいけません。しかし、SNSやインターネットの書き込みで、「死ね」とか「消えろ」などと書き込む人がいるという話を聞いたことがあると思います。それで深く傷つき、自ら命を絶つ人もいます。

皆さんは、相手に対して「死ね」「消えろ」などという言葉は決して使わないようにしてください。そして、自分の嫌な気分や意地悪な気持ちから出る言葉や行為が、相手を傷つけてしまっていないか、振り返ってみてください。

今週は、授業や様々な活動の中で、『命の大切さと思いやりの心』について、じっくり考えてほしいと思います。

水と友達になろう！～プール開き～



6月8日から、学年ごとにプール開きをし、水泳学習を始めました。先週は梅雨空はどこへやら、最高気温は30度を超える天気が続き、絶好のプール日和となりましたが、11日は濾過器まわりの配管の故障から、中断を余儀なくされました。しかし、幸いにも修理が1日で済み、今週から授業を再開しています。

これから約1ヶ月、水に親しみ、泳ぎ方を学びながら、体力の向上と共に、水辺活動を行う際の危険から身を守ることも目的に、学習を進めていこうと思います。

昨年度と変わったこと(その4)・・・通知表(あゆみ)

今年度も1学期終了後に、保護者面談を行います。(面談の詳しい日程については、来週初めに文書でお知らせします)

これに伴い、1学期の通知表において、「学校から御家庭へ」(総合所見)の欄をなくします。そして、お子様の学校での様子や学習の成果については、保護者面談の中で直接お伝えします。

なお、2学期以降の通知表では、従来通り「学校から御家庭へ」(総合所見)欄を設け、学習や生活のようす、総合的な学習の時間などの特筆すべき事項もお知らせします。

